

かまはし

第81号

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会



わがまちの顔

ウクレレ奏者・漫画家

よしだ

吉田 どんきち ちゃん

吉田でんきちさん（一九七八年生）は、西蒲田一丁目在住のウクレレ奏者であり、漫画家です。

子供の頃からコントが好きで、高校一年生の時、友人とザ・ドリフターズの映画を観に行かれたそうです。映画も終わり、後ろの席を振り返ると高木ブーさんが座っており、これが生涯の師匠との初めての出逢いになりました。

平成一四年（二〇二二）、高木ブーさんが、麻布十番でハワイアンを生演奏を聴きながら、お酒や食事を楽しめるお店を営んでおり、そこでウクレレという楽器と出逢いました。高木ブーさんのウクレレソロ弾きを聴いた吉田さんは、ウクレレという楽器の素晴らしさに衝撃を受け、直接、高木流の門下生を志願しました。

約四年ほど高木師匠の指導を受けながら、お仕事のお手伝いもするようになり、それは今も続いているそうです。

娘さんが通っていたフラダンススタジオで、ウクレレ教室を開催

していた先生から、後を引き継いで欲しいとの依頼があり、高木師匠に相談したところ、「いいじゃないか！」とお墨付きをもらい、初心者向けの教室を始めることになりました。

折々には、高木師匠が、自身のステージに吉田さんの生徒達を上げてウクレレの演奏を披露する場を作ってくださり、プロのステージが生徒達の発表会になる貴重な機会にも恵まれました。

一方、漫画については、奥様の職場の食事会で自作の漫画を披露したところ、思った以上に反響があり、近くに編集部がある、「城南タイムス」に持ち込んだところ、見事に採用され、平成二六年（二〇一四）より、「オトボ家」の連載が開始されました。

吉田さんの漫画の本質は「ドリフ」と「蒲田調」です。ドリフのコントの設定は様々ですが、吉田さんは一貫して庶民の生活の中でありそうでないことをなるべくリアルに描きます。一言でいうとホ



でんきちさん作成のポップなイラスト

ームドラマのようであり、悲劇的な部分もユーモアを交えて明朗に伝えていきます。吉田さんは、自身の漫画について、松竹蒲田撮影所が生み出し、その黄金期を支えた「蒲田調」の精神を基本としていると言います。蒲田調とは、庶民の立場に立ち、人間社会に起こる身近な出来事を通じて、人生の真実を直視しようという考えのことです。時代と共に人々の生き方は変化していきませんが、吉田さんは蒲田調で様々な人達の生き方を見事に描き出しています。

今後について、吉田さんは、地元の蒲田から生まれたスタイル（蒲田調）を広く発信していきたいそうです。近いうちに漫画を動画にしてネットで配信したいと語っています。また、高木師匠から教わったウクレレの楽しさや魅力を多くの人に広める伝道師として、活動を続けたいとのことでした。

今後の吉田さんの活躍を期待しています。

（取材 中田・斉藤委員）

蒲田西地区の水道の歴史

矢口町水道利用組合から矢口水道株式会社へ



昭和7年頃の水道会社分布図

上の図は昭和七年（一九三二）頃の東京市の水道会社分布図です。現在は東京都水道局が運営していますが、この頃、中心部以外は全て民営会社が運営していました。蒲田西地区には矢口水道株式会社が飲み水を届けていたのです。

江戸時代の水道

東京の水道の起こりは徳川家康が江戸に入府した天正一八年（一五九〇）に本郷台地周辺の流れを利用して造った小石川上水で神田上水へと発展します。幕府は次の水源を多摩川に求め、承応二年（一六五三）玉川上水が誕生します。

明治に入ると上水の汚染や木樋（木でできた水道管）の腐朽といった問題が起きます。原水を沈殿ろ過して鉄管で圧送する近代水道の創設が求められましたが、実現しませんでした。

近代水道の歴史

日本の近代水道は横浜で始まります。急激に市街化した横浜は海を埋め立てた土地のため良質な水に恵まれず明治一八年（一八八五）野毛山に浄水場を作る近代水道に着手、二年後通水を開始します。

明治二八年に水道条例に基づく初めての水道が大阪市に作られました。水道条例は明治二三年に制定され水道の経営は自治体が行うなどの水道に関する規制を初めて

行いました。昭和三二年に制定された水道法の前身です。

明治三十一年に東京市の水道は淀橋上水工場（今の新宿副都心）から本郷給水工場（今の本郷給水所）を経て通水、これに伴い神田上水と玉川上水は市内への給水を停止しました。ところが人口の急増に伴い水道条例の一部を見直し、市町村に資力がなければ民営水道の敷設を許可した後に市町村が買収するという改正が行われ、大正七年（一九一八）に玉川水道株式会社が生じます。

矢口町水道利用組合

矢口近辺は地質が悪く地盤も低いため東京市営水道の区域外で、玉川水道株式会社の給水区域と多摩川に挟まれて残っていました。

矢口町は水道利用組合を作るために動き昭和三年に東京府許可を得て有限責任矢口町水道利用組合を設立しました。

水源は矢口町古市場曾根分地先（現在の矢口三丁目三三番）に井戸を掘り地下水をポンプで取水する計画で昭和四年に着工しましたが昭和恐慌のせいか組合も施工業者も資金不足に陥り工事は中断、組合員数も減少して、水利組合は途方に暮れました。そこで鹿島組（現在の鹿島建設）に矢口町の水道敷設の話が持ち込まれます。

矢口水道株式会社

鹿島組が国庫補助により工事代金を受け取れる用途をつけ矢口町水道利用組合と請負契約を締結したのは昭和五年二月。工事は順調で予定通り同八月に完成しました。

ところがその時の組合員数では矢口水道利用組合は国庫補助条件を満たさず、補助を受けることができなかったため、鹿島組は工事代金を受け取れませんでした。鹿島組は新会社を創立して自ら水道事業を営営することを決断します。

昭和六年、矢口水道株式会社設立許可申請書を提出、同年八月に矢口水道利用組合の水道並びに敷設権を買収継承し事業一切を引き受けることとなりました。

本社は水源地从一キロメートル以上離れた目蒲線の本門寺道駅前に置かれました。現在の東矢口三丁目三一番です。

水道株式会社経営開始から二か月後に矢口水道利用組合は解散しましたが、矢口水道株式会社は組合員数を順調に伸ばしました。

昭和七年、東京市は隣接五郡八二町村を併合。東京府荏原郡矢口町は東京市蒲田区矢口となります。東京市は旧東京市と郡部の水道の統一を目指し、玉川・矢口・日本水道の三社を除く町営、町村組合経営の十水道事業を市が継続経

営し、各給水地域は旧東京市水道料金と同様の料金としました。

矢口水道は給水戸数が増えるにつれ水源地一か所では賄いきれなくなり、昭和九年、下丸子に水源井を新設します。

東京市へ譲渡

昭和一〇年に東京市は玉川水道を買収、東京市会は矢口水道と日本水道の買収建議を可決します。

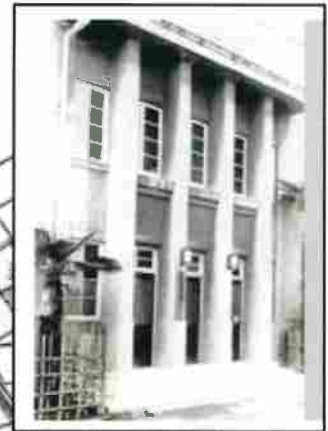
昭和一二年、矢口水道は水道事業の東京市への譲渡を受諾。三月一日、矢口水道株式会社は事業一式を東京市に譲渡し解散しました。

本社建物は東京市が水道課営業所として利用しました。戦時、空襲で矢口水道は消失しましたが、水源地は昭和三五年まで東京都水道局の水道水として使われました。今、会社と浄水場があった面影はありません。(取材 大良委員)

当時使用されていた矢口水道量水器
(湯澤工業株式会社 提供)



上段「町口矢」下段「器水量」と記載されています
(この頃、横文字は右から左へ記載しました)



本社の写真



昭和7年頃の矢口町地図

水源地の写真



読者からの感想

読者の皆様、いつも本紙『かまにし17』をご覧いただきましてありがとうございます。どうぞございます。

かまにし17は創刊から二〇年、前号で80号に達しました。これもひとえに読者皆様の支えがあったことと、あらためて感謝申し上げます。

さて、今年度、本紙は第78〜80号を発行しておりますが、そのうち二記事について読者からご感想をいただきましたので、以下にご紹介します。

●第79号『ご存知ですか？ 環八のジャカラダ』について

第78号『ジャカラダ』の紹介を読んで、六月半ば、さっそく探しに出かけました。

初めて見る、しっかりした木と美しい青紫の花！……何十年も傍を通っていたのに全く気づかずにいました。この木の葉も、初めて見るものでした。

来年も六月になったら見に行こうと、今から楽しみにしています。ありがとうございます。

(多摩川在住のSさん)

Sさん、お便りありがとうございます。ジャカラダの木をお知らせし、喜んでいただけ、当方も嬉しいかぎりです。来年もぜひ見に行つて楽しんでください。

●第80号『ご存知ですか？ 呑川の高濃度酸素水浄化施設』について

ふだん区関係のものはあまり読まないのですが、『呑川の水浄化装置』の記事が目にとまり拝読しました。

住まいの目の前を呑川が流れているので、悪臭に関しては直に感じている住民の一人です。悪臭の原因や区の対応などについて、このような記事にしてください、区もしっかりと対策に取り組んでいるのだと心強く思いました。

(詳しい話はよくわかっています。さんが、区は何をやっているのか、あの謎の施設は何か？ などモヤモヤせずにすみませした。)

編集委員の皆様、水質対策に日々励まれている皆さん、ありがとうございます。今後ともよろしく

くお願いいたします。

(西蒲田在住のMさん)

Mさん、ありがとうございます。大田区は何をしているのかといったモヤモヤが吹っ切れて、よかったと思います。

●読者の皆様へ

今回は、二通のご感想を紹介させていただきます。編集委員会として、こうしたご感想をお寄せいただくことは大歓迎で、今後紙面を作成するうえで大きな励みとなります。

また、ご感想だけでなく、ご意見やご投稿記事もお待ちしております。

ご連絡は下記事務局へどうぞ。

(事務局)

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,191 人
	女	29,889 人
	計	62,080 人
世帯	36,167 世帯	

令和4年2月1日現在

祝！全国そろばん コンクール二連覇

かまにし17第79号でご紹介させていただきました丸山雄大さんが、昨年11月23日に行われた「全国そろばんコンクール」で日本一に輝き、見事二連覇を達成されました。

雄大さんは「二連覇へのプレッシャーがあったが、優勝できてよかったです。」とお話されており、また、「次回も、優勝し三連覇を達成したいです。」と力強く語られていました。

今年の三月には、前回優勝している「オールジャパンそろばんチャレンジオンシップ」も控えており、そちらも二連覇の期待がかかります。雄大さんの今後益々のご活躍が楽しみです。

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七-1-1
電話 3732-4785